

上嵯峨地区 先よみ ワークショップ報告会

実際の行動に

上嵯峨地区5常会のみなさんと、8月から進めてきた「先よみワークショップ」の報告会を11月8日（火）に開催しました。

第1回目のワークショップを始めたころは、人口減少による漠然とした不安が中心でしたが、具体的な課題の整理からその課題に対する取り組みの検討、さらには始めやすい取り組みの順番の整理と段階的に進めたことにより、各常会とも具体的なイメージを持つことができました。

報告会では、改めてこれまでのワークショップを振り返り、各常会として何に取り組んでいくのかを再確認し、発表しました。

具体的には、地域の人口減少に問題意識を持っている宮上常会では、「地道に地域をPRしていく」ということを確認し、まずできることとして、地域でSNS（ソーシャル・ネットワークサービス:インターネット上で写真や動画などの情報を発信するサービス）のアカウントを作り、上嵯峨の魅力を発信していくことから始めようという発表がありました。

実は、この新しいSNSの取り組み、すでに「Instagram」という若者を中心に利用されているSNSに「kamisaga_sanagochi」というアカウントで始まっています。

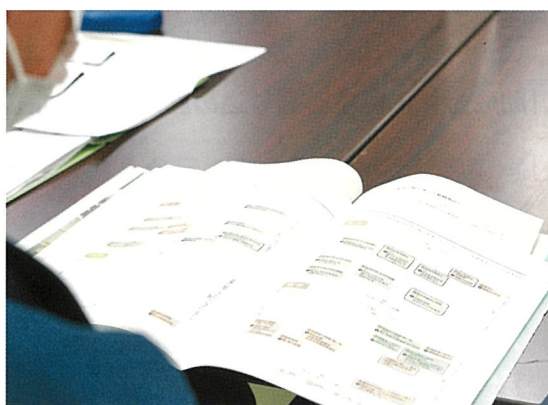
今後はフォトコンテストの開催など、積極的に地域の魅力を住民の視点で発信していく取り組みも発表されました。

また、他の常会からは、5年後10年後の消防団員の不足や常会の運営が難しくなることを見据えて、「常会出席者の世代交代を進めていく」という取り組みが発表されました。

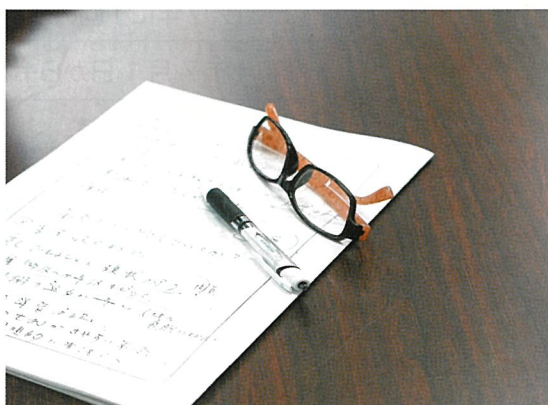
毎月集まっている常会の高齢化も進む中、家族内で意図的に出席する人を変えていく（完全に交代するのではなく、家族のいろんな人が少しずつ出席する回数を増やしていく）ことで、無理のない世代交代が進むのではないかという提案も



ワークショップ全体の進行は本村在住の、徳島大学の田口太郎さん。



第3回目のワークショップの結果を確認しながら、自分たちにできる具体的な取り組みをイメージします。



メモをびっしり書かれている参加者もいらっしゃいました。

ありました。さらには、技術革新が進んでいるモバイルの活用や新しい情報機械の導入にも取り組んでみたいということも紹介されました。

加えて、「村外へ転出された人たちが帰ってきたいと思う地域づくり」を進めていくために、今回の先よみワークショップの成果資料を常会で配布し、現状を共有することから始めていこうという意見が多く出されました。

高齢化していく地域での防災活動に関心の高い嵯峨常会では、揃えている防災用品を利用して、「常会の前に炊き出しをやってみる！」という決意も語られました。11月26日の常会で実施されるとのことです。

小さなことでもやってみる、 ということの大切さ

今回、3週間の間隔で先よみワークショップを進めてきました。地域の人口減少や高齢化が進む中、将来を見据えて活動を起こしていくことは難しく感じられがちです。しかし、このまま何もせずに時間が経過してしまうと、状況はますます深刻になります。

紹介したように、最初に始める活動が簡単なものでも、それぞれの地域の実状に即した形で、少しずつ活動の幅を広げていくことが大切です。上嵯峨地区の5常会は、この先よみワークショップを契機に小さな1歩を踏み出しました。ぜひ、他の地域のみなさんも小さな活動づくりに向けて考えていきましょう。



各常会では、これまでの取り組みを振り返りながら、実際に始める活動を確認していきます。



上嵯峨地区全体の前で発表する前の確認中でも、熱のこもった意見交換が行われ、新しいアイデアも出されていました。



「自分たちはこれをやります!」
全体の中で力強く発表いただきました。

実施する地区や組織を募集します!

上嵯峨地区では自分たちの地域にとって遠いようで近い未来である“10年後”の地域の様子の視覚化からワークショップをスタートし、自分たちの実状に即した取り組みを考えてきました。みなさんの地域や組織で、少しでも「こういう取り組みが必要では?」と感じられましたら企画政策課にご相談ください。改めてワークショップの意義や進め方について、ご説明させていただきます。また、今回の報告書も企画政策課にてご覧いただけますので、お気軽にお声掛けください。

人口減少は今後も進みますが、佐那河内村の明るい未来に向かって、少しでも多くの地域や組織からのご相談をお待ちしています。